

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 本城 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

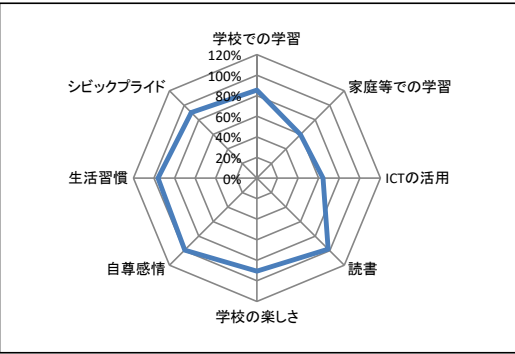
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	すべての領域、観点において全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる 問題は全国平均正答率を上回った。	下回っている
	努力が必要な問題	思考力、判断力、表現力を問う内容は、正答率が低い。	

数学	全体的な傾向や特徴など	すべての領域、観点において全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる 問題については他の問題より全国平均に近い正答率である。	下回っている
	努力が必要な問題	A 数と式、B 図形、C 関数の領域で正答率が特に低い。	

理科	全体的な傾向や特徴など	すべての領域、観点において全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する 問題において全国平均に近い正答率であった。	下回っている
	努力が必要な問題	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる 問題で全国平均より正答率が大きく低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「家庭等での学習」で行っている割合が低かった。「学校での学習」の割合が全国平均よりは低い、比較して高いことを考えると家庭でも学習をできるように啓発していく必要がある。 ・ 「ICTの活用」についての活用が低かった。授業での活用できるように授業改善が必要である。 ・ 「自尊感情」については全国平均よりやや低かったものの同水準であった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ 現在の取組の継続。ドリルアプリ（ICT）を使用した毎朝の朝読書の取り組み、特に数学科については週2回行う。
- ・ 各学期ごとに学力コンクール（漢字・英単語・計算）を実施し、基礎学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 学級通信や学期末の保護者会などで、家庭学習の大切さを伝える。
- ・ 携帯電話、スマートフォンの使用は家庭内でのルールなど、使用のあり方について啓発する。